

平成23年度 第1回通学区域審議会会議録

開催日時：平成23年10月20日（木）午後1時30分から

開催場所：習志野市教育委員会1階大会議室

出席者：審議会委員 福山委員（会長）、真船委員、長田委員、鶴岡委員、小柳委員、
三代川委員、村山委員、青島委員、中台委員
市側（事務局） 植松教育長、柴崎教育総務部長、押田学校教育部長、
江口学校教育部次長、小熊学校教育課長、
学校教育課渡邊学務係長、笹生管理主事、宮崎管理主事、

傍聴者なし

議題及び会議の概要

【議題】 「JR津田沼駅南口開発に伴う谷津小学校の通学区域について」

【会議の概要】

事務局より、開発に伴う谷津小学校児童数の推計および増築について、資料に基づいて説明

質疑応答

（A委員） 平成28年度までに児童数が250名程度増加するということだが、各学年ではどのように推計しているか。

（学校教育課長） 流動的な部分もあるので、全体として増えていくと理解していただきたい

（A委員） 学童室の現状は。今後どのように考えているのか。

（学校教育課長） 学童室は学級増と同じように設置をしていく。

（B委員） これまで最大何学級数になったことがあるのか。

（学校教育部長） いままで30学級以下だが、昔は45人学級だった。児童数は最大1300人。文部科学省の35人学級をどこまで進めていくのか流動的であるが、それを最大見込での32学級である。

（B委員） グランドや体育館は使用に耐えると考えてよろしいか。

（学校教育課長） 対応できる。

(B委員) 隣接する向山小学校の現状と予測は。

(学校教育課長) 向山小は現在全校で200名程度、今後250名程度まで増えると予測している。小規模特認校なので、谷津小学校と向山小学校の2校のリーフレットを配布し、2校の中から選択できるように、開発業者をお願いしている。

(教育総務部長) 向山小は現在9クラス。最大12クラスになるのではないかと推計している。

(A委員) 谷津幼稚園はどのくらいの増加を見込んでいるのか。

(学校教育部長) 谷津幼稚園は現在6教室今ある。幼稚園は募集人員を超える場合は、抽選になる。

(C委員) 学区の線引きは変えずに編入ということなので、将来の教育行政のビジョンがあつてのことと理解している。近隣の小学校との格差があるということも、ビジョンがあることと理解している。谷津小学校は増築で動線が迷路になっている。250人の児童数が増える中で、トイレの改築増築を配慮してほしい、という要望が強い。

「奏の杜」は既存の町会に、新しくマンションができたという増え方ではない。全く新しい町、法人格を持った一般社団法人で町会を構成する。コミュニティがむずかしい、と危惧している。奏の杜と既存の谷津小学区の子供たちとのコミュニティを構築できるような配慮を考えてほしい。また、1000人の谷津小と200人の向山小がそのまま一中に上がってくる。一中の中でコミュニティがとれるような配慮をお願いしたい。

(教育総務部長) 耐震化について、従来は28年度までに市内すべての学校が終わる計画であつた。大震災を受けて28年度までの計画を26年度に前倒しをすることになった。トイレの改修は耐震化と合わせて改修していたが、老朽化と耐震化を分けて、耐震化工事を26年度までに終了させることになるので、トイレの改修は毎年1校程度行うこととなる。来年はたまたま谷津小、これから予算要求していく。

(会長) コミュニティの構築ということではどうお考えですか。

(学校教育課長) 谷津地区のコミュニティを分断することのないようにしたい。一中の施設は、対応可能である。

(C委員) 一中の学校に上がってくる生徒の9割が谷津小になってしまう、ということでのコミュニティの構築を要望したい。

(D委員) 中1ギャップということで新しい仲間作りがうまくできない、不登校に陥る子もいる。数の少ない学校から来る子たちの教育相談や、グループエンカウンターなどの研修をしていきたい。

- (E委員) 教室などに対応できる。グラウンドや体育館が手狭になる、学童等のスペースが足りるのか、ということが一番心配だ。
- (学校教育課長) 小学校設置基準があり、地域の実態に応じて弾力的に運用されている。工夫していく中で運用していく、と考えている。
- (学校教育部次長) 体育館で体育の授業を行うときは、2クラスで有機的に活用するところもある。手狭ではあるが工夫次第でかなり有効に活用できる。
- (F委員) 今の予想ではこの人数に対応できるが、将来思った以上に増えてしまったときは学区変更を考えるのか。
- (学校教育課長) 習志野市の公共施設の再生計画で、コミュニティ見直しを含めて考えている。大きく変わった時は、通学区域審議会を通して考えていきたい。
- (G委員) 向山小の学区が狭いので、谷津小から入れるほうがよいのかな、と思ったが、当面はその計画はない、ということなので、クラスの人数を40人にすることはできないのか。
- (学校教育課長) 国・県からの、少人数できめ細かな指導をしていくという方針がある。県から提示されたクラス基準に沿って進めていく。
- (H委員) 習志野市の公共施設の老朽化が進んでいるが、すべての施設を再生することできない。どのようにまちづくりをすすめていくのか、学校の在り方、コミュニティの在り方も含めて考えていかなければならない。今後、学区のことも一緒に考えていかなければならない。
- (D委員) もとからいる習志野っ子と、入ってくる子とのことは研究課題になっていく。大きな力となって今後の習志野を支えてくれるようにならなければならない。谷津小・一中で継続して研究しなければならない。校長会でも研究を進めていきたい。
- (C委員) 「奏の杜」に入ってくる子が、そのまま谷津小というのは、将来ビジョンを見越してのことだと理解している。学区の見直しをやるのであれば、10年スパンの中で、毎年のようにビジョンを示して、市民の人が生活設計できるようにしてもらいたい。子供の学区は生活に大きなウエートを占める。市内全域の学区の見直しということであれば、毎年アナウンスをして、毎年市民の声を聞いてほしい。
- (A委員) 幼稚園区の見直しがされた。幼稚園が変わったのなら、小学校はどうなんだろう、中学校は、という発想が必要なのではないか。東部でも同じような問題が起り、悩みを抱える保護者が多い。幼・小・中という一つのスパンとして提案してほしい。

「奏の杜」だけでなく、全体感を持って考えてほしい。

(B委員) 公共施設の老朽化・見直し、コミュニティの見直しもある。学校を地域コミュニティの核として考えていくなれば、地域の方々の気づきあげてきたコミュニティを大切に、今後どのように統廃合していく考えがあるのか。

(教育総務部長) 行政改革推進室で今後策定する、公共施設再生計画との整合性をはかる中で考えていきたい。

(会長) 以上をもちまして質疑を終わらせたいと思います。
事務局は本日審議委員から出た貴重な意見をまとめ、答申案をたて、次回の会議に示してほしい。次回はそれを検討して答申としたい。